



## 2021年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月15日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東  
 コード番号 7829 URL https://www.samantha.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)門田 剛  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)永井 利博 (TEL) 03(6400)5524  
 四半期報告書提出予定日 2020年10月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年2月期第2四半期の連結業績 (2020年3月1日～2020年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	7,921	△34.8	△2,043	—	△1,872	—	△8,091	—
2020年2月期第2四半期	12,157	△13.2	△288	—	△396	—	△437	—

(注) 包括利益 2021年2月期第2四半期 △8,090百万円 (—%) 2020年2月期第2四半期 △466百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	△191.42	—
2020年2月期第2四半期	△12.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第2四半期	26,028	8,631	32.4
2020年2月期	10,596	438	2.2

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 8,428百万円 2020年2月期 234百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年2月期	—	0.00	—	—	—
2021年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年2月期の連結業績予想 (2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,393	12.1	△2,151	—	△2,236	—	△8,498	—	△157.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年2月期2Q	65,851,417株	2020年2月期	35,296,000株
② 期末自己株式数	66株	2020年2月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	42,270,595株	2020年2月期2Q	35,296,000株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	9
(追加情報)	10
(重要な後発事象)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内外における新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じつつ、段階的な経済活動の再開によって回復の兆しがみられるものの、依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

当社グループが属するファッション・アパレル業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言発令に伴い、店舗の営業時間の短縮及び臨時休業、インバウンド客数の減少、外出自粛による消費マインドの低下等により厳しい経営環境となりました。

このような状況下、当社グループでは、緊急事態宣言期間中の4月上旬から5月下旬にかけて国内の大部分の店舗で臨時休業や営業時間短縮などを実施しました。緊急事態宣言解除後は、一部営業時間を短縮し全店舗で営業を再開しましたが、お客様と従業員の安全を最優先に考え、マスクの着用、除菌剤の設置、ソーシャルディスタンスの確保など、感染防止拡大に努めながら営業し、売上の回復を図ってまいりました。一方で仕入の抑制や人員の効率化、広告宣伝費・販売促進費などの経費削減にも努めてまいりました。

また、2020年7月21日付で株式会社フィットハウスを吸収合併し、純資産を大きく改善させ財務基盤を強化するとともに、株式会社コナカの連結子会社になることにより、同社の支援も得ながら業績改善を図っております。

店舗展開につきましては、バッグ事業は「Samantha Thavasa (サマンサタバサ)」を金沢百番街リントに出店、4店舗退店、ジュエリー事業は1店舗退店、アパレル事業は「Swingle (スウィングル)」を小田急百貨店新宿店に出店、3店舗退店、海外は1店舗退店となりました。また、2020年7月21日付で株式会社フィットハウスを吸収合併したため、サマンサタバサグループ合計で前年度末比で22店舗純増し、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は317店舗となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は79億21百万円（前年度比34.8%減）、営業損失は20億43百万円（前年度は2億88百万円の損失）、経常損失は18億72百万円（前年度は3億96百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は合併に伴い発生したのれんの減損58億45百万円を計上したことにより80億91百万円（前年度は4億37百万円の損失）となりました。

なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

総資産は260億28百万円であり、前連結会計年度末と比較して154億32百万円増加しております。主な要因は、現金及び預金が13億16百万円、商品及び製品が46億58百万円、有形固定資産が60億45百万円増加したことなどによるものであります。

##### (負債)

総負債は173億96百万円であり、前連結会計年度末と比較して72億38百万円増加しております。主な要因は、短期借入金が30億36百万円、長期借入金が21億7百万円増加したことなどによるものであります。

##### (純資産)

純資産は86億31百万円であり、前連結会計年度末と比較して81億93百万円増加しております。主な要因は、合併に伴う資本剰余金の増加75億14百万円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ、13億16百万円増加し、29億77百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、7億46百万円（前年同四半期は3億73百万円の資金の増加）となりました。主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失80億59百万円、補助金収入2億8百万円などによるものであり、主な増加要因は、減価償却費2億21百万円、減損損失61億83百万円、たな卸資産の減少額4億10百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果増加した資金は、25百万円（前年同四半期は1億5百万円の資金の減少）となりました。主な増加要因は、敷金及び保証金の回収による収入1億5百万円などによるものであり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出76百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果増加した資金は、6億67百万円（前年同四半期は3億19百万円の資金の減少）となりました。主な増加要因は、短期借入金の純増加額8億33百万円などによるものであり、主な減少要因は、長期借入金の返済による支出1億68百万円などによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期通期の業績予想につきましては、株式会社フィットハウスの合併及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響を合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたが、第2四半期連結会計期間の実績を踏まえ、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、通期の連結業績予想を、本日2020年10月15日付けで公表しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,660,581	2,977,070
受取手形及び売掛金	1,133,617	1,437,388
商品及び製品	4,231,363	8,890,209
仕掛品	3,222	2,469
原材料及び貯蔵品	124,537	129,254
その他	272,804	666,114
貸倒引当金	△628	△2,886
流動資産合計	7,425,497	14,099,621
固定資産		
有形固定資産		
土地	-	3,813,857
その他(純額)	913,338	3,145,031
有形固定資産合計	913,338	6,958,888
無形固定資産		
その他	282,583	1,802,567
無形固定資産合計	282,583	1,802,567
投資その他の資産		
差入保証金	1,823,309	2,363,718
その他	151,363	803,348
投資その他の資産合計	1,974,673	3,167,067
固定資産合計	3,170,594	11,928,523
資産合計	10,596,092	26,028,144
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,002,169	1,176,083
短期借入金	3,933,334	6,969,648
1年内返済予定の長期借入金	3,207,041	3,366,061
未払法人税等	86,782	156,962
賞与引当金	144,523	282,729
その他	1,049,453	1,806,511
流動負債合計	9,423,304	13,757,995
固定負債		
長期借入金	669,672	2,777,332
その他	64,720	861,283
固定負債合計	734,392	3,638,615
負債合計	10,157,697	17,396,611

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	406,592	7,921,398
利益剰余金	△2,178,956	△1,636,412
自己株式	-	△7
株主資本合計	360,235	8,417,578
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△22,365	10,072
為替換算調整勘定	△103,213	834
その他の包括利益累計額合計	△125,578	10,907
非支配株主持分	203,737	203,047
純資産合計	438,395	8,631,532
負債純資産合計	10,596,092	26,028,144

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
売上高	12,157,694	7,921,995
売上原価	4,166,410	3,248,271
売上総利益	7,991,284	4,673,724
販売費及び一般管理費	8,280,064	6,717,187
営業損失(△)	△288,779	△2,043,462
営業外収益		
受取利息	775	1,510
受取配当金	939	563
補助金収入	-	208,094
その他	4,264	24,835
営業外収益合計	5,979	235,004
営業外費用		
支払利息	12,007	20,007
為替差損	92,858	34,469
その他	8,862	9,473
営業外費用合計	113,727	63,950
経常損失(△)	△396,527	△1,872,408
特別利益		
固定資産売却益	-	4,999
その他	-	2,415
特別利益合計	-	7,415
特別損失		
固定資産除却損	25,505	11,413
減損損失	-	6,183,067
特別損失合計	25,505	6,194,481
税金等調整前四半期純損失(△)	△422,033	△8,059,474
法人税、住民税及び事業税	33,660	32,060
法人税等調整額	△22,628	△1,232
法人税等合計	11,032	30,828
四半期純損失(△)	△433,065	△8,090,302
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,989	936
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△437,054	△8,091,239



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
四半期純損失(△)	△433,065	△8,090,302
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16,478	△8,040
為替換算調整勘定	△17,292	8,122
その他の包括利益合計	△33,771	82
四半期包括利益	△466,836	△8,090,219
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△449,734	△8,089,529
非支配株主に係る四半期包括利益	△17,102	△690

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△422,033	△8,059,474
減価償却費	225,597	221,574
減損損失	-	6,183,067
賞与引当金の増減額(△は減少)	5,962	63,205
受取利息及び受取配当金	△1,715	△2,074
為替差損益(△は益)	23,550	5,219
支払利息	12,007	20,007
補助金収入	-	△208,094
固定資産除却損	25,505	11,413
売上債権の増減額(△は増加)	△261,640	98,150
たな卸資産の増減額(△は増加)	765,608	410,577
仕入債務の増減額(△は減少)	△203,292	40,640
その他	293,588	479,703
小計	463,137	△736,082
利息及び配当金の受取額	1,436	1,984
利息の支払額	△11,020	△17,805
補助金の受取額	-	6,000
法人税等の還付額	712	291
法人税等の支払額	△81,146	△575
営業活動によるキャッシュ・フロー	373,120	△746,186
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△158,753	△76,707
無形固定資産の取得による支出	△50,822	△13,896
投資有価証券の取得による支出	△3,625	△3,350
敷金及び保証金の差入による支出	△24,591	△16,697
敷金及び保証金の回収による収入	137,146	105,104
その他	△4,528	31,157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105,175	25,609
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	700,000	833,314
長期借入れによる収入	500,000	4,472
長期借入金の返済による支出	△1,168,794	△168,750
配当金の支払額	△350,848	△2,020
その他	-	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△319,642	667,008
現金及び現金同等物に係る換算差額	△43,844	△10,251
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△95,542	△63,819
現金及び現金同等物の期首残高	1,990,821	1,660,581
被取得企業の現金及び現金同等物の期首残高	-	△1,660,581
取得企業の現金及び現金同等物の期首残高	-	1,380,308
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	1,660,581
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,895,279	2,977,070

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年7月21日付で株式会社フィットハウスを吸収合併し、同社の普通株式1株につき、当社の普通株式1.4株を割当て交付いたしました。当該合併により、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が7,514,806千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が7,921,398千円となっております。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

(吸収合併)

当社は、2020年5月1日開催の取締役会において、当社と株式会社コナカ（取締役社長CEO：湖中謙介、以下「コナカ」）の連結子会社である株式会社フィットハウス（以下、「フィットハウス」）を合併（以下、「本件合併」）することについて決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。なお、本契約について2020年6月29日開催の当社定時株主総会にて承認決議を受け、2020年7月21日にフィットハウスを吸収合併いたしました。

##### 1. 企業結合の概要

###### (1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	当社
事業の内容	バッグ、ジュエリー 及びアパレルの企画・製造・販売

###### (2) 企業結合を行った目的

当社は昨年5月に新経営体制へ移行して以来、商品企画力や良質素材調達力の強化、生産背景の再構築、品質管理体制の強化などの改革を行うとともに、昨年9月にはコナカと資本業務提携を行い、店舗の出店におけるノウハウや情報共有、当社よりコナカグループへの商品供給、人材交流等の連携を進め、業績向上に取り組んでまいりました。

しかしながら、消費者の低価格志向が続く厳しい市場環境の中で、昨年10月の消費税増税や天候不順、さらには4月以降の新型コロナウイルス感染症の蔓延による店舗の休業や消費マインドの大幅な低下により先行き極めて不透明な状況下、コナカグループとの連携をさらに強化し、財務基盤を安定させるとともに業績向上を図っていくことが喫緊の課題となっております。

一方、フィットハウスは、東海地区を中心にシューズ、バッグ及び服飾雑貨等の販売事業を営んでおりますが、現在の消費者の低価格志向を踏まえ、従来の海外ブランドを中心とした高価格商品の販売から、当社が持つ「製造小売」(SPA)システムを利用した高粗利の自社商品の開発・販売へビジネスモデルを転換していくことが、今後の成長のための重要な課題となっております。

本件合併により両社の経営課題を早期に解決するとともに、両社の合併により当社はコナカの連結子会社となり、コナカグループにおけるファッション事業の競争力強化とともに経営資源の最適化・効率化を図ることを目的としております。

###### (3) 企業結合日

2020年7月21日

###### (4) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社とし、フィットハウスを吸収合併消滅会社とする吸収合併

###### (5) 企業結合後の名称

株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

## (6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成31年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日)の取得企業の決定方法の考え方にに基づき、フィットハウスを取得企業と決定しております。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間  
2020年3月1日から2020年8月31日まで

## 3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合日に交付したとみなしたフィットハウスの普通株式の時価	5,012,032千円
取得原価	5,012,032千円

## 4. 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

## (1) 株式の種類別の交換比率

フィットハウスの普通株式1株に対して当社の普通株式1.4株を割当て交付いたします。

## (2) 株式交換比率の算定方法

複数のフィナンシャル・アドバイザーに株式交換比率の算定を依頼し、提出された報告書に基づき当事者間で協議の上、算定しております。

## (3) 交付株式数

普通株式 30,555,417株

## 5. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 32,141千円

## 6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

被取得企業である株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの取得原価と時価純資産との差額によりのれんが5,845,943千円発生しましたが、将来キャッシュ・フロー予測に基づく回収可能価額を検討した結果、当第2四半期連結累計期間において全額を減損損失として計上しております。

## (追加情報)

## (会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の広がり、当社グループの事業活動に影響を及ぼしています。今後の広がり方や収束時期等を予測することは困難なため、会計上の見積りを行う上で、特に将来キャッシュ・フローの予測を行うことは極めて困難です。

このため、繰延税金資産の回収可能性や減損損失の判定、継続企業の前提に関する事項の検討等については、四半期連結財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、当連結会計年度末にかけて消費動向が徐々に回復し、この影響は2021年2月期中に概ね収束するという一定の仮定を置いて最善の見積りを行っています。

なお、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは当第2四半期連結会計期間末において有利子負債額が131億13百万円（短期借入金69億69百万円、1年内返済予定長期借入金33億66百万円、長期借入金27億77百万円）と手元流動性29億77百万円（現金及び預金）に比し高水準な状況にある一方、当第2四半期連結累計期間に20億43百万円の営業損失を計上しました。

このような状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在しております。

当該事象又は状況を解消するための対応策として、2020年7月21日付けで株式会社フィットハウスと合併し、財務基盤を強化いたしました。また、株式会社コナカの連結子会社になることにより、同社より2020年10月15日に8億円の長期借入を行うとともに、取引金融機関とは既往債務に約18億円を追加したリファイナンスを10月末日に実行する見通しとなりました。これらの借入により、当面の経営に支障をきたさない十分な資金を確保できると判断しております。

これにより、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。